

名前とデザインに 込めた思い



ゼロ・ウェイスト円卓会議と、水俣に縁あるデザイナーの吉本清隆氏が力を合わせて創り上げたのが、茶のみ場のネーミングとブランドロゴデザインです。

食とコミュニケーションとゼロ・ウェイスト。茶のみ場の取り組みを通して伝えたい私たちの思いが、この名前とデザインに込められています。



みなまた茶
茶のみ場
CHANOMI BAR
の葉
しおり

ゼロ・ウェイスト円卓会議
2010年11月

茶のみ場とは？

自分の水筒(マイボトル)やカップ(マイカップ)を持って行くと、一回100円で美味しいお茶がたっぷり手に入る場所です。ペットボトル入りのお茶を買うより ①美味しくて ②ちょっとお安く ③空き容器がごみにならない といういいことがあります。これから水俣市内のいろんなところに「茶のみ場」が登場していきます。

なぜ水俣で茶のみ場なのか

1. 水俣の**美味しい**お茶が気軽に飲める場所をつくる
2. ペットボトルや紙コップの**ごみ**を減らす

1. 水俣には美味しいお茶と、美味しい水があります。でも、水俣を訪れる人たちは「水俣はお茶も美味しいね」と思っているでしょうか？ 茶のみ場は、水俣のお茶を本当に美味しく飲むこと(水俣を訪れる人たちに飲んでもらうこと)を、急須を使うことにこだわりながら目指していきます。

2. 水俣ではこれまで「リサイクル」に力を入れてきました。でも、リサイクルには限界があります。リサイクルするにもエネルギーがかかりますし、どれだけ細かく分別しても、そもそもごみになる量が多くてはごみは減りません。そこで、水俣では2009年11月に「ゼロ・ウェイストのまちづくり水俣宣言」をしました。このことについては次のページでもうすこし詳しくお話しします。

2. 目的と美味しさの**違い**

ペットボトルのお茶は、消費者の口に入るまで時間がかかることを前提につくられています。だからこそ「化学物質の添加」や「高温での再加熱」が必要となるのです。このような行程は、「お茶の美味しさ」を損なわせます。つまり、ペットボトルのお茶は、ごくごく飲んでのどの湯きをいやすことに主眼が置かれていて、本来のお茶の美味しさを楽しむ目的ではつくられていないのです。

3. 気持ちの**違い**

急須で淹れたお茶には、**おもてなしの心**がつまっています。お茶を差し上げる相手の好みや今の気持ちを会話の中から酌み取りながら、相づちを打ち、言葉をかけるように、茶葉の種類や量・お湯の温度・抽出時間を決めて、今のその人に合ったお茶を淹れます。また、茶のみ場では水俣のお茶農家さんたちの「みなまた茶」を使います。「みなまた茶を美味しく淹れたい」「美味しく飲んで欲しい」。急須で淹れたお茶は、生産者と消費者を**気持ちでつなげて**いきます。



* 参考文献『うかたま』vol.14 農文協 2009年

急須のお茶と ペットボトルのお茶

手軽で便利なペットボトルのお茶。でも茶のみ場では、「急須でいれたお茶」にこだわっていきたくて考えています。それは、空き容器のごみを減らしたいということだけでなく、急須のお茶とペットボトルのお茶には、そもそも飲み物として大きな違いがあるからです。

1. 淹れ方の違い

ペットボトルのお茶は工業的につくられる清涼飲料水です。まず少量の茶葉から濃いお茶を抽出します。その抽出液を濾過して澄んだ液にし、水で薄めます。この時、酸化防止や長期保存の目的でアスコルビン酸(化学的につくられたビタミンC)や重層などが加えられます。その後高温殺菌(135℃30秒程度)が施され、容器に詰められて商品になるのです。一方で、急須でいれるお茶はこのような「処理」は加えられませんから、ペットボトルのお茶ほどには日持ちがしませんし、均一でもありません。急須で淹れるお茶の味や水色は、人によって、そして淹れるたびに変わりますが、それは「変わる」というより「変えられる」のです。例えば、甘さを出したいときは低い温度でゆっくりと、すっきりした苦みを出したいときは熱めのお湯でさっと淹れるといった“技”を生かすことができます。

「ゼロ・ウェイストの まちづくり水俣宣言」 と茶のみ場

「ゼロ・ウェイスト」を日本語に直訳すれば「ごみゼロ」「無駄ゼロ」となりますが、今まで日本でよく言われてきた「ごみゼロ」とは少しイメージが異なります。

「ごみを出した後に処理する」という今までの視点(リサイクル:資源化もその視点です)を見直し、暮らしの中でごみになる前の段階から考え、行動としてリユース:再使用・リデュース:発生抑制を行いながら、**ごみを元から減らす**ことから出発するのが「ゼロ・ウェイスト」なのです。

使い捨て容器を使わない茶のみ場の取り組みは、ステーション収集で実績を積み重ねてきた水俣で、もう一歩先に進める「リデュース」の実践を通じた、ゼロ・ウェイストをめざす暮らしの提案でもあるのです。



私たちが考える「ゼロ・ウェイスト」とは、
資源やエネルギーの消費を“できるだけ減らす”
暮らしの中で使うものをムダなく“できるだけ回す”
自然にすてなければならぬごみを“限りなく減らす”
そして、そのための暮らしやしぐみを“みんなでつくり、支えていく”
ということです。 *ゼロ・ウェイストのまちづくり水俣宣言[前文]より



水俣市内
各所で
モデル運用
準備中

茶のみ場へ

お出かけ先の近く、今飲みたい種類のお茶を淹れてくれる、好きなお菓子屋さんのお隣… あなたのお気に入りの茶のみ場を選んで、立ち寄ります。

ボトルやタンブラーなど、お茶のいれものを用意します。

ボトルを用意

お気に入りの
マイボトルを
持ち歩こう



茶のみ場の つかい方



お茶を楽しむ

自分の好きな場所で、好きなようにお茶を楽しみます。

例えば
お茶と
いっしょに
スイーツ



ボトル1杯
100円が
基本です

いれてもらう

美味しいお茶の淹れ方を身につけた茶のみ場のスタッフ。あなたの好みに合わせたお茶を淹れてくれます。